

小学四年

国語

解答と解説

1

問五	ア	26	問一	①	ウ	21
問六			⑦			
エ	ア	27	問二	ア	22	
問七						
ア	ウ	28	問三	エ	23	
問八						
ウ	イ	29	問四	イ	24	
問九						
イ		30				25

2

問一	①	エ	37	問十一	イ	35	問十	ら	ん	仲	真中さんのことばで立場が悪くなったとたん、
⑤	ウ	⑦	38	問十二	教室の窓か	36	。	が	間		
イ	問二	イ	39					久	だ		
ア	問三		40					田	と		
			41					さ	思		
								ん	っ		
								一	て		
								人	い		
								の	た		
								せ	の		
								い	に		
								に	、		
								し	仙		
								た	道		
								か	さ		

31
32
33
34

		5		4		3			
⑥	土管	①	愛犬	①	五	③	主語	①	主語
							工		×
							述語		述語
⑦	関係	②	児童	②	十	④	主語	②	主語
							オ		工
							ア		ウ
⑧	連	③	英才	③	四	④	述語		述語
							オ		ア
⑨	別	④	石炭	④	千				
⑩	改	⑤	汽笛	⑤					

(配点)

①〔問一〕各2点、〔問十〕8点、他各5点
 ②〔問一〕各2点、〔問七〕6点、他各5点
 ③④⑤各2点

計150点

【解説】

① ひとつみく『チキン!』(文研出版)から出題しました。自分正直でいようとするために、周囲と衝突する真中さんと、真中さんのまっすぐさにとまどいながらも、徐々に彼女のよいところに気づく「ぼく」を中心に物語は描かれています。登場人物それぞれの気持ちを丁寧に読みとりましょう。

問一

A2 知識 関係づけ

① 「融通」とはその場その場にに応じて適切な処置をとることです。

⑦ 「きびすを返(す)」の「きびす」とはかかとのことです。「きびすを返(す)」は引き返すことです。

問二

A2 関係づけ 知識

② 授業中ですから、手紙は先生に気づかれないようにまわつてくると考えられます。

③ 《③》の前で、真中さんがまちがっていると思ったことは、見て見ぬふりをするのではない様子が書かれています。ウ「こまごま」エ「ねちねち」は真中さんの性格や行動を表すには合わない言葉です。

⑩ 直後で仙道さんが久田さんに同調して「そうだよ。わざとじゃないもん」とあることから、ここには「わざと」が入ることがわかります。

問三

B1 理由 比較

——線④の直前に、ぼくの考えが書かれています。みんなが「がまんしたり、見て見ぬふりをしたりして」いることに

真中さんが「つつかかってしまふ」とあります。自分がどう思われようとまちがっていることを正さないと気が済まないところが「浮いた存在」になってしまふ原因だと読み取れます。真中さんの一連の行動がまとめられている選択肢を選びましょう。ア「大人からよく思われようとして」、イ「クラスメイトと仲良くする気がない」、ウ「人をきずつけることを何とも思っておらず」「思いやりのない」などの部分が誤りです。

問四

B1 具体化 比較

ここでの「願い」とは「真中さんがおとなしくしていますように」です。ですから、「願いが聞き届けられた日は、まだ一度もない」ということは、真中さんがおとなしくしていた日はまだ一度もない、ということです。

問五

B1 具体化 比較

藤谷さんは、「いつもひとりですノートに絵を描いているおとなしい女の子」です。「気にしてない」と言ったのは自分さえがまんすればよいという気持ちがあったのだと考えられます。しかし、久田さんの「ほら、本人がいついていつてんじゃん! おおげさんだよ」という一言で、藤谷さんは、自分の「気にしてない」ということばのせいで真中さんが責められていることをさとります。しかし、その久田さんの強い態度に怖気づいて、ノートをやぶったことへ抗議すること、真中さんをかばうこともできません。だからどうすることもできずに「完全に固まってしまった」のだと考えられます。イ「久田さんたちとの仲がこじれてしまったので、真中

さんを許せない」、ウ「言い返す：チャンスをつうかがっている」「エ「久田さんの：言い分にあきればはて」「話しあいではきかないと見切り」などの部分が本文中からは読み取れず、不適切です。

問六

B1 関係つけ 知識

⑧ の前で、三人が「同時に声をあげ」、非常に驚いていることがわかります。ですから、ここには「とてもおどろいた」という意味の「息をのんだ」が入ります。「胸をなでおろ(す)」はほつとすること、「目頭をあつく(する)」は感動してなみだぐむこと、「鼻をあか(す)」は人のすきを見えて相手をびつくりさせることです。

問七

B1 理由 比較

線⑨の直後に「あ、あたしは：やぶったわけじゃない」とあることから、久田さんが動揺していることがよみとれます。そして、後でしぶしぶ謝っていることから、イ「ひどいことをしてしまった：自分がはづかし」は誤りです。ウ・エには動揺している気持ちが示されていませんし、エ「一方的に責めてくる」などは本文中に書かれていません。

問八

B1 置換 比較

線⑪の直前に「藤谷さんが：いいよって見せてくれてたら」とありますが、これは、藤谷さんのノートを見せてくれたら、ということですから、「こんなふう」というのは藤谷さんのノートの状態のことを指しているのだと考えられます。

問九

B1 理由 比較

真中さんの指摘の前に、「ぼく」が「これじゃあ、まるで藤谷さんがわるいみたいじゃないか。なんかおかしい。仙道さんのいつてることって、すぐへんだ。」と思っていることに注目しましょう。「ぼく」は真中さんと同じく仙道さんの発言はおかしいと思いがちでも、それを明確に言語化することも、本人たちに伝えることもできていません。しかし、真中さんはそれをしてのけました。だから「かつこい」と思ったのです。ア「久田さんが反省でき」、ウ「久田さんが心から反省：冷静に見ぬいていた」、エ「藤谷さんの気持ちを：伝えることで」、「みんなを藤谷さんの味方に」などの部分が本文中には示されていません。

問十

B2 理由 推論

久田さんがおどろいたのは、自分と同じように藤谷さんをはじめていた者同士だった仙道さんが、今回のことを久田さん一人のせいにしたからです。おどろきの理由を説明するとき、「(と)思っていた」の「から」の形で説明するとうまくまとまります。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問十一

B1 具体化 比較

線⑭を含む前後の久田さんの「赤い目で：にらむ」「唇をかんだ」「しぼりだしたようなかすれる声」などから、

久田さんが一人謝ることに納得がいかず、くやしさをこらえていることを読みとりましょう。ア「自分がなさけなく、はじける」、ウ「自分たちに仕返ししてきた」、エ「二人と仲よくしたいと強く願う」は本文中から読み取れません。

問十二 B1 抽象化

その場の風景や自然を描くことで、主人公の気持ちを表現することを「情景描写」といいます。ここでは、二ページ下段の「教室の窓からなまぬるい風がなめるように流れてくる」の部分です。体にねっとりまとわりつくようななまぬるい風を「なめる」と擬人法をつかって表現しています。話の展開のおかしさに強い違和感を覚えた「ぼく」の気持ちがこの一文からも読み取れます。

2 小泉武夫の『いのちをはぐくむ農と食』（岩波書店）から

出題しました。筆者は、幕の内弁当の中に入っているサケを例にだし、日本人が値段が安いというだけで食べものを選んでいることを問題視しています。食べることは生きるということと深く結びついています。ですから食べものに対する選択基準を今一度見直す必要があると主張しています。

問一 A2 関係づけ 知識

文と文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。《①》の後に「つぎは」「それから」と食べものとその食べ物があるところから輸入したものか列挙していつています。ですから、ここには「まず」が入ります。《⑤》の前では日本のサケが「世界一おいしい」こと、後では、「安心・

安全だといわれている」ことが書かれています。日本のサケの特徴の二つ目の内容ですから、《⑤》には並列を示すつなぎことばにもなる「そして」が入ります。《⑦》を含む一文は問題提起の文です。ここ以降から「日本のサケが日本国内で食べられなくなった理由」が書かれていることがわかります。ですから、ここには話題転換の「では」が入ります。

問二 B1 関係づけ 比較

②の直前に「つまり」があることに注目しましょう。これ以前の内容の言い換えが②ということですが。前の部分では、いちばん安い幕の内弁当に入っているおかずやお米、箸にいたるまでぜんぶ輸入品であることが一つ一つ示されていきました。ですから、これをまとめた表現であるイが正解です。ア・ウ全部輸入品であるのは、「見た目の美しさを大事」にしたからでも、「外国の食材は日本人の口にあう」からでもなく、安価だからです。エ「栄養のことを全く考えていない」というのは極端な表現です。

問三 B1 具体化 比較

線③の直前の段落で、「食べものの価値判断をお金ですること：これは正しいことなのか」と問題提起をしたうえで、「サケの話」は最後の二段落の前まで続きます。そして、最後の筆者の意見が述べられる段落で食べものの選択基準がいまの日本人はおかしくなっていると言っています。このことから、サケの話は「食べものに対する選択基準」つまり、食べものに対する価値観を見直し、考えてほしいということ

を言うための例だということが分かります。

問四

1 B1 具体化 比較

——線④の後の「しかし」に注目しましょう。この「自然条件で育ったサケ」の短所は、「放流した稚魚のうちで、大きくなつて帰ってくるのは1%にも達しない」ことだと読み取れます。そのせいで、値段が高くなり、おいしいまま食べるために、わざわざ河口付近や前浜などで獲らないといけないので、手間もかかります。長所は、安心・安全でおいしいことです。ア「中国でサケ缶に加工したもののしか味わうことができない」、イ「成長するとおいしくなくなってしまうので、日本では人気がない」、エ「河口や前浜で丁寧に育てる」などの部分が本文中に示されています。

2 B1 置換

この「自然条件で育ったサケ」と比べられているのが、チリやノルウェーの養殖サケです。「養殖」が「自然条件で育った」の反対の意味のことばになっています。

問五

B1 理由

——線⑥の次の段落に「日本人はなぜ…食べなくなったのでしょうか」とあることに注目しましょう。その直後に「安価な養殖サケが大量に外国から入ってきているから」と理由が書かれています。

問六

B1 具体化 比較

——線⑧の直後に「それは…」とあって、ここ以降に「リス

ク」の内容が示されていることがわかります。ですから、このリスクとは、「生簀の中で飼っているの…伝染して全滅する」ということだと分かります。

問七

B1 関係づけ

文の並べ替えの問題です。このような問題が出たときは、つなぎことばや、指示語に注意しながら考えるとよいでしょう。⑨の直前に「日本の…サケを食べるべき」とあり、ア「でも、現実には…食べていない」とあるので、これが一番に來ます。アに「冷凍庫がサケでいっぱいになり」とあり、ウに「売れないのに…サケをもちかかえていると…」とあるので、ウはアの後です。イの「それによってもちこたえられないサケ業者」の「それ」は「毎月…冷凍庫代」がかかることをさしていますので、イはウの後です。よって、答えは、ア→ウ→イです。

問八

B1 具体化 比較

——線⑩の「こういう情けない民族」の「こういう」の内容を明らかにしましょう。それは直前の「安全面やおいしさの点で大丈夫かなというサケを、安いという理由だけで買って食べている」ということです。最終段落のまとめ部分のことばでいえば、日本人は、「食べる」という「生きていく」ことに直結した行為においての「選択基準」が「おかしくなっている」ということです。ア「おいしさ…目の前の快楽や利益に流されて」、エ「おいしいと思ひこみ」の部分が本文の内容とあいません。また、筆者は、サケに関する知識がないことを「情けない」とは言っていないので、ウも誤りです。

問九

B1 抽象化 比較

筆者は幕の内弁当、特にサケを例に出して、日本人の食べものの選択基準がおかしくなっていることに警鐘をならしめています。イ「国産のサケを日本で消費する方法を読者に考えさせる」、ウ「日本でとれるサケが…食卓に並ぶかを説明」、エ「食材がどこから来たのかを一つ一つ説明」などの部分が、本文の内容と合いません。

3

A2 知識

主語と述語の問題です。まず述語から探し、それをしたのはだれか？それはなにか？というように考えると主語をとらえやすくなります。

① 述語は「わたした」です。「わたした」のはだれかと考えると、「ぼくは」や、「わたしは」などが主語になるとわかりますが、この一文では主語にあたる言葉が省略されています。

② 倒置文（文が通常の語順ではない文）です。通常の語順に直すと、「ぼくを／うらぎったのは／きみだったのか」です。述語は「きみだったのか」です。この文の中で、なにがきみだったのか、と考えると「うらぎったのは」が主語になることがわかります。

③ 述語は「ある」です。何かあるのかと考えると「池が」が主語になることがわかります。「ゝでは」「ゝには」は「ゝで」「ゝに」を強調した言葉です。

④ 述語は「セーターです」です。何がセーターなのかを考えると、「これは」が主語だとわかります。「母が」は「あんでくれた」の主語にあたる言葉です。この一文の主語で

はありません。

4

A1 知識

四字熟語の問題です。漢数字が使われる四字熟語はさまざまあるので、今のうちからしつかりおさえておきましょう。

① 五里霧中…深い霧の中にいて、方向がわからないことから、物事の事情がわからず、どうしてよいかわからないこと。

② 十人十色…十人いればそれぞれ顔かたちが違うように、人によつて、好みや考え方がちがっていること。

③ 四苦八苦…非常に苦しむこと。

④ 一日千秋…一日が千年にも感じられるほど長く思われること。千秋とは千年の意味。